

# 令和7年度 学校評価アンケート 集計結果

児童用の質問内容	児童全体	低学年	中学年	高学年	保護者	教職員
<b>「たのしく(知)」</b>						
1 学校での学習に、一生けんめい取り組んでいますか。	3.6	3.5	3.6	3.7	3.4	3.4
2 自分の考えや思ったことを、進んで伝え合ったりノートに書いたりしていますか。	3.2	2.9	3.2	3.6	3.4	3.6
3 ギガタブやコンピュータを使って、楽しく学習に取り組んでいますか。	3.7	3.6	3.6	3.8	3.1	2.9
4 家庭で毎日進んで学習をしていますか。	3.3	3.2	3.4	3.3	2.8	3.1
<b>「なかよく(徳)」</b>						
5 友達や家族、地域の方などに進んであいさつをしていますか。	3.5	3.4	3.5	3.7	3.3	3.5
6 いじめをせず、友達に優しくしたり友達と仲良くしたりしていますか。	3.7	3.6	3.8	3.9	3.6	3.6
7 みんなが気持ちよく生活できるよう、進んで考えたり行動したりしていますか。	3.5	3.4	3.5	3.6	3.6	3.4
<b>「元気よく(体)」</b>						
8 体育の学習で進んで運動したり、休み時間や放課後に外遊びをしたりしていますか。	3.5	3.6	3.5	3.3	3.5	3.3
9 好き嫌いをせず、栄養バランスに気をつけて、食事をしていますか。	3.4	3.4	3.3	3.5	3.2	3.6
10 心と体が元気に過ごせるよう、生活の仕方に気を付けていますか。	3.5	3.5	3.4	3.8	3.3	3.4
<b>「開かれた学校」</b>						
11 学校だよりや学年だより、学校HP等によって、学校の教育活動を積極的に発信していると思いますか。					3.4	3.5
12 いじめ・不登校の未然防止や早期発見、早期対応などに適切に取り組んでいると思いますか。					3.2	3.6
13 児童が安全・安心に生活できるよう、安全対策に努めていると思いますか。 (交通安全・防災・不審者・性被害など)					3.4	3.5
14 連絡帳や電話連絡などを通して、適切に家庭と連携していると思いますか。					3.4	3.5

学校評価アンケートは、児童の自己評価項目を基本に、保護者用は児童の成長の見取りを、教職員用は自身の指導の振り返りをそれぞれの項目として行いました。以下の考察をもとに、子どもたちにとって価値のある充実した教育活動が推進できるよう、全教職員で努めてまいります。  
今後ともご理解ご協力をよろしく願います。

- 水色で表示してある部分・・・前期と比較して、0.1上回るもの
- 青で表示してある部分・・・前期と比較して、0.2以上上回るもの
- 薄いオレンジで表示してある部分・・・前期と比較して、0.1下回るもの
- 濃いオレンジで表示してある部分・・・前期と比較して、0.2以上下回るもの

## 「たのしく(知)」について

児童の自己評価は前期同様高い傾向にあり、学習に対して主体的に取り組もうとする姿勢が身に付いていることがわかります。後期は〈②表現力〉〈③ICTの活用〉の項目において、伸びが見られました。

前期の課題となっていた〈②表現力〉については、児童・保護者は1ポイント、教職員は2ポイント評価が上がりました。グループでの話し合いや全体で意見を述べる場面を意図的に取り入れながら、先生や友達との対話を通して解決していく学習過程を大切に進めています。今後もより一層力を入れ、学力向上のみならずコミュニケーション能力や人間関係形成能力、自己肯定感を高められるよう努めてまいります。

〈④家庭学習〉については、保護者の見立てが前期同様2.8ポイントとやや低い評価となりました。今年度は自ら漢字学習に取り組むことができるよう、月2回漢字検定を行い、漢字練習を奨励してきました。その他、机に向かう習慣づけができるように、量を調整しながら宿題を出していましたが、宿題を負担に思う児童と、宿題の他にも自主学習を進める児童等、取組が二極化している様子が見られます。家庭で机に向かい学習する時間をもつことは、自ら主体的に学ぶ姿勢を育む大切な機会ですので、ご家庭でも家庭学習の定着に向けてお声がけをよろしくお願いします。

〈③ICTの活用〉は保護者・教職員と児童の評価に差があります。児童はギガタブで学習することを好み、触れることに慣れてきていることがわかりますが、今後はさらにICT活用能力を高め、学習効果が高まるような取組が必要です。教職員の研修を多く取り入れながら、ICTの効果的な活用をめざしていきます。

## 「なかよく(徳)」について

この項目も児童の自己評価が非常に高くなっており、〈⑥思いやり〉〈⑦行動〉においては前期に比べて数値がさらに高くなりました。

学級活動やなかよし活動、委員会活動などを充実させることで、互いのよさを認め合ったり協力して活動したりできる場を多く設定したこと、道徳の授業を工夫して、児童の心の成長を図ってきたことは効果があったと考えます。一方〈⑤挨拶〉は前期から1ポイント下がっているため、集団生活を通して人と関わる中で機会を逃がさずに声を掛けることで、挨拶や言葉づかいなどの基本的なマナーや礼儀について、その価値を実感できるようにしていきます。

## 「元気よく(体)」について

児童の自己評価が前期に比べて向上した項目が多く見られました。晴れた日はもちろん、寒い日も校庭を広く使って元気に遊ぶ子どもたちの姿が多く見られます。〈⑧運動〉については前期よりも数値が上がりました。高学年の児童は休み時間に行う作業などが多いため、外に出て遊ぶ回数は減ってしまいがちですが、ロング昼休みに外で遊んだり、休み時間を上手に使うことによって積極的に球技の練習をしたりと体を動かしていました。次年度も、週一回のロング昼休みを位置付け、体育委員会を中心に全校で運動に取り組むイベントを計画するなど、運動に親しむ機会を意図的に設定していきたいと思えます。

〈⑨食事〉に関しては、保護者や低・中学年の評価はやや低めです。給食の時間には、どの学級も苦手な食べ物にも一口は挑戦してみようという姿勢で取り組んでいます。児童の意識を高めるために、栄養士や養護教諭と担任が話し合いながら工夫して授業を行ったりしています。今後も、各種お便りやギガタブの電子連絡板を用いて情報発信に努め、保護者と連携を図りながら、お子さんの心身の調和のとれた成長を促していきたいと思えます。

## 「開かれた学校」について

前期に比べ、全体的に1ポイント下がる結果となりました。〈⑩いじめ不登校の未然防止〉に関して、保護者の皆さんからは適切な学校の対応と取組を期待されていることがわかります。いじめや不登校などの生徒指導・教育相談に関わる問題の解消には、保護者の方と学校の連携が不可欠です。児童一人一人に目を配り、児童の健全な成長のために、保護者・地域との連絡を密にしていきます。さらに、学校での取組をお知らせする機会を工夫し、信頼される学校づくりをより一層推進してまいります。